

港品川宣教協力体合同堅信式説教

2017年10月15日、年間第28主日、麻布教会

[\[聖書朗読箇所\]](#)

主イエスは、神の国の福音を、いろいろなたとえ話によって、説明されました。

最近の主日の福音は、3回ほど続けて、『ぶどう園』に関するたとえ話です。

『ぶどう園の主人と農夫のたとえ話』が先週（年間第27主日）、その前は、『ぶどう園に招かれたふたりの息子のたとえ話』（年間第26主日）、さらに、3週間前は、『ぶどう園で働く労働者のたとえ話』（年間第25主日）でした。

ぶどう園というのは、神様が、わたしたちを派遣して、働く場所、人々を招いて、神様のみ心を行わせるための世界を表していると思われれます。

わたしたちは、この世界、ぶどう園に遣わされ、そちらで、神様のみ旨に従って、良い実を結ぶようと、期待されています。

今日は、「王が王子のために催す婚宴のたとえ話」です。

今日の話に出てくる王は、父である神様、御子イエス・キリストのために、婚宴を催すということを伝えている話であると思われれます。

『婚宴』、あるいは、『宴会』という主題は、聖書を通して、たびたび登場します。今日の第一朗読、イザヤ書では、万軍の主が、すべての民を招く祝宴が述べられています。

「万軍の主はこの山で祝宴を開き

すべての民に良い肉と古い酒を供される。

それは脂肪に富む良い肉とえり抜きの酒。

主はこの山で・・・（省略）

死を永久に滅ぼしてくださる。

主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい

御自分の民の恥を 地上からぬぐい去ってくださる」（イザヤ25・6-8）。

神様が、わたしたちを、その喜びの宴会に、招いてくださるといふ、喜ばしい福音が、すでにイザヤ書で、述べられています。

さらに、黙示録の中では、次のように言われています。

「子羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」（黙示19・9）。

神の国が完成したときのイメージを持って、神様は、すべての人を、ご自分の宴会に招いてくださるといふ、喜びの便りを告げています。この言葉をわたしたちは、

聖体拝領の前に唱える祈り、「神の子羊の食卓に招かれた者は幸い」として唱えています。

さて、今日のたとえ話の後半です。

礼服を着ていない者は、外の闇に放り出されてしまう、と言うのです。

王は、家来を遣わして、いろいろな人を王子の婚宴に招きましたが、人々はいろいろな理由をつけて、招きを断ります。

そこで、王は、良い人であっても、悪い人であっても、誰でも良いから、呼んできなさいと命じます。そして、部屋がいっぱいになるほどの人が、婚宴の席に連なることになった。急に呼ばれて、身なりを整える余裕もないままに連れてこられた人に対して、礼服を着ていないことをとがめられるということであるならば、それは、よく分からない話であるということになりはしないでしょうか。

この、「礼服」は、何を意味しているのでしょうか。

人生には、いろいろと重要な場面、例えば「死」という場面がありますが、いつ、どのようにして、その場面が自分に訪れるのかということ、わたしたちは、よく知ることはできない。

たぶん、そのことを教えているのかもしれない。いつでも準備していなければならない。いつでも、そのときが来たら、そのときを、よく迎えることができるように、心を整え、生活を整えていなければならない。わたしたちは、そのようにしなければならないのだと思います。

恐らく、この礼服というのは、文字通りの、立派な、婚宴のときに着ていく服というよりも、王の招きに、いつでも応えることができるような、準備のことを指しているのではないかと思います。準備とは、心の準備、生活の準備のことではないかと思います。

ふさわしい心、それは、神の招きに、いつでも応えようとする信仰、そして、自分が至らないものであるということ、よくわきまえる、謙遜さ、神の恵みへの感謝、そして、神の国の完成へと、自分が連なることができるという希望を表しており、そして、そのような心構えで、日々誠実に生きる、日々の愛の実行ではないかと思います。

今日、ご一緒に献げている、このミサは、神の国の完成の宴会の前触れ、かたどりでであると言われます。

ミサというのは、主として、『ことば』の食卓と、父である神との親しい交わりを示す『感謝』の食卓から成り立っていますが、ご聖体をいただくときに、ふさわしい準備をして、主の御からだをいただきます。

それは、ちょうど、神の国に最終的に入るときのことを、あらかじめ、表している

と考えることができます。

さて、今日、堅信を受けられるみなさんは、『福音を宣教する』という使命を授かります。福音宣教とは、すべての人を、神の国の宴会へ招くということであると、言い換えることができます。

「神様は、すべての人を、ご自分の幸せ、ご自分の喜びの集いに招いてくださっています。ですから、いつもふさわしい心で準備していなさい。生活も整えなさい。」そのようなことを、人々に教え、伝えることが、福音宣教ではないかと思います。

聖書朗読箇所

第一朗読 イザヤ書25[6-10a

万軍の主はこの山で祝宴を開き

すべての民に良い肉と古い酒を供される。

それは脂肪に富む良い肉とえり抜きの酒。

主はこの山で、すべての民の顔を包んでいた布と

すべての国を覆っていた布を滅ぼし

死を永久に滅ぼしてくださる。

主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい

御自分の民の恥を地上からぬぐい去ってくださる。

これは主が語られたことである。

その日には、人は言う。

見よ、この方こそわたしたちの神。

わたしたちは待ち望んでいた。

この方がわたしたちを救ってくださる。

この方こそわたしたちが待ち望んでいた主。

その救いを祝って喜び躍ろう。

主の御手はこの山の上にとどまる。

第二朗読 フィリピの信徒への手紙4 12-14, 19-20

〔皆さん、わたしは、〕貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。

わたしたちの父である神に、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

福音朗読　　マタイによる福音書22 1-14

〔そのとき、イエスは祭司長や民の長老たちに〕たとえを用いて語られた。「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。「食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。」』

しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』

そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。王が客を見ようと入って来ると、婚礼の礼服を着ていない者が一人いた。王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」

[説教へ戻る](#)